**説教20230108サムエル上3：1-10ヨハネ1：43-51「偽りなき人」**

**「わたしに従いなさい」「来て、見なさい」これらのセリフは今日のヨハネ福音書における、イエス様と、フィリポの発言です。こういった言葉の端々から感じられるのは、キリストが伝えられるということは、実に旅だなあ、ということです。「私に従って次の場所へ行こう、私について来て見てみれば！」という声掛けが為され、そう言われたものが、その人を信じてついていく時、信仰によってイエス様との出会いが用意されていくのだと思います。**

**今、教会前に伝道ボックスが設置され、道行く人たちが、御言葉に触れることが出来るようになっています。少しづつですが確実に文書が減っていますので、手に取った人は、御言葉が記された文書を家やホテルに帰って読んでいらっしゃるのだろうなあ、などど私は思っています。この様にして、イエス様の御言葉に触れる機会が与えられ、次の段階が、「来て、見なさい」「わたしと一緒に来て教会を見て下さい」と声掛けをして、教会へと人を連れて来るということになるでしょう。**

**ちなみに私が教会へ通うようになったきっかけは、先ず、家で一人で「聖書の言葉」という、図書館から借りたCDを教養のために、聞いていた処、その御言葉にハマってしまいました。それから自然と、キリストのことを口にするようになって、或るクリスチャンのご夫婦と懇意になりました。それから毎週教会に誘われて、そのご夫婦と共に教会の主日礼拝に出席することになったのでした。**

**この様に、御言葉は、私たちの日常の生活の内に根付き、息づいているものです。イエス様は今は地上にはおられませんので、その御言葉を隣人に伝えるのは、今地上にいるクリスチャンたちに任されているのです。**

**キリスト信仰が伝えられていくということは、私たちがこの世の旅路を歩んで行く中で、この様に自然な形で、そして様々な形で、隣人へと伝えられていくのです。そこに伝道とはこうせねばならないといった、決まりのようなものはなかなか決められないことでしょう。私たちは聖霊に身を委ねて、神の御心を問いつつ、とにかくキリストの福音を告げ知らせるために、一歩を踏み出すしかないのです。**

**今、世間を騒がせている「宗教二世」という問題があります。カルト宗教においては、親の信仰が、子どもたちに強制され、子どもたちの行動がその宗教の方針に従って様々に制約され、又金銭的にも搾取されるという事態が起きている様です。**

**こういった事態は、正統なキリスト信仰では起こり得ないことです。では、カルト信仰と正当なキリスト信仰の違いは何処に在るのでしょう。一例として、先週の木曜祈祷会で読まれました詩編５２編から引きますと、カルト信仰者は、「神を力と頼まず／自分の莫大な富に依り頼み／自分を滅ぼすものを力と頼んでい」るのです。一方で、正統なキリスト信者は、「神の家にとどまります。世々限りなく、神の慈しみに依り頼みます。そして、とこしえに、感謝をささげます。御名に望みをおきます／あなたの慈しみに生きる人に対して恵み深い／あなたの御名に」依り頼むのです。**

**御名に寄り頼むとはどういうことでしょうか。それはキリストの御言葉を味わい、甘い蜜の様にそれを食べて、自分の内に納めるということです。つまり、お金と言うのはそれ自体を味わうことは決してできませんが、御言葉と言うのはそれ自体を味わい、それ自体によって、私たちは慰められ癒され励ましや力が与えられるというものなのです。プロテスタントの教会において、説教と聖餐式が重んじられているのは、説教で御言葉を味わい、且つ、聖餐式で御言葉を味わうということからきています。**

**今日のヨハネ福音書の箇所は、キリスト信仰が、人から人へと口伝てで伝わっていくという好例を記した箇所として有名です。**

**この個所では、イエス様のことはフィリポからナタナエルへと伝えられました。フィリポはベトサイダ出身で、ナタナエルはカナの出身でした。ベトサイダとカナとは、30キロくらい離れています。又、カナは、イエス様が生まれたナザレから１０キロくらいの処にあります。ベトサイダもカナもナザレも、そんなに大きくない、肩を並べるような街々でした。フィリポとナタナエルは古くから付き合いがある友人だったのでしょう。そしてイエス様は神様ではありますが、人としては、ナザレと言う普通の町で、普通に人の子として育てられました。つまりキリスト信仰は普通の人によって、普通の街々で、普通の会話によって伝えられたのでした。使徒言行録4章 13節に「議員や他の者たちは、ペトロとヨハネの大胆な態度を見、しかも二人が無学な普通の人であることを知って驚き、また、イエスと一緒にいた者であるということも分かった」と記されていますが、御存じのようにペトロは漁師出身の普通の人でありました。**

**なぜ普通であることを強調したかと言いますと、今でもそうですが、何か偉大な真理や教えは、非常に優れて傑出した人物だけによって独占的に伝えられるものだという思い込みが私たち人間にはあるからです。例えば、優れた哲学者や科学者、今でいえば専門家によって、真理や教えは伝達されるものだと私たちは思い込んでいる面があります。しかしキリストの真理や教えは、そう言うように伝わるのではなくて、普通のクリスチャンたちによって、信仰によって静かに伝えられることなのです。**

**キリストの真理や教えは、私たちが発する言葉の端々に現れます。私たちは平生イエス様の御言葉によって養われていれば、自ずと、よく味付けされた御言葉を、隣人に対して語れるようになることでしょう。フィリポはナタナエルに出会って言いました。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」フィリポはこの様に、イエス様のことを、ナザレの人、ヨセフの子としてごく普通の人として紹介をしたのでした。ですからナタナエルも、最初は信じられないで「ナザレから何か良いものが出るだろうか」と言い返したのですが、それに対して、フィリポは、「来て、見なさい」と言ったのでした。こうしてナタナエルはフィリポについて行ったのでイエス様と出会うことになりました。**

**いかがでしょうか。私たちが偉大な真理と出会う、とっかかりと言うのは、実はこのように普通の日常の友達同士のやり取りなどであるのではないでしょうか。逆に、出会った当初から人を魅了し夢中にさせるような仕方には、落とし穴もあるということを私たちは経験していることでしょう。ナタナエルはフィリポからイエス様を紹介されたとて、初めからその名に夢中にさせられることはなかったのでした。彼はかえって冷静でした。「ナザレから何か良いものが出るだろうか」こういう冷静な言葉を発しつつ、彼はフィリポについて行ったのでした。**

**そしてナタナエルはイエス様に出会った途端にびっくりさせられたのでした。なぜならば、自分はイエス様と初対面なのに、イエス様のほうは自分のことを過去からずっとくまなく知っておられたからでした。イエス様はナタナエルに「あなたが、いちじくの木の下にいるのを見た」と言いましたが、このことはナタナエルの過去を言い当てることでしたので、ナタナエルは一瞬でイエス様のことを信じたのでした。**

**イエス様は、ナタナエルが幼いころからイチジクの木の下で律法と預言書をよく学んできた、偽りがないよくできた人であることを知っていました。イエス様は、この地上の全人間一人ひとりをご存じなのですからそれは当たり前ではあります。**

**イエス様はさらに偉大な真理をナタナエルに教えます。「はっきり言っておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる。」これは、ヤコブが野宿した時、天に通じるはしごを見た、という創世記の記事が実現することをイエス様は言ったのですが、よくできたナタナエルは当然、この創世記の記事にピンときたことでしょう。**

**天に通じるはしご、と言うのは、天の国に続いているキリストの道ということの言い換えの表現ですが、この様に、真理と言うのは、だんだんとはしごを登るように、様々な言葉の表現を伴って、言い広められていくことでしょう。**

**そのようにして、私たちは、イエス様の十字架の救いというところまで、宣べ伝えるようにされています。十字架の死の先に、天の国に続いているキリストの道が続いており、復活されたイエス様が、その道へと私たちを招いていて下さる、ということが最も偉大な真理であり、私たちの救いであるのですが、この救いの福音を伝えるのには、やはり段階を踏む必要があるかも知れません。なぜならば、十字架の死と聞いた途端に、教会へ来ることを躊躇する人がいるとも限らないからです。**

**イエス様の恵みと言うのは、その最も偉大な恵みは、永遠の命が頂けるということですが、イエス様は、恵みの上に、更に恵みを下さる方ですから、私たちはその恵みの一つひとつ、小さな恵みをも、受け損なうことがないように、しっかりと受け取って参りましょう。例えば、昨年末のクリスマスの祝会でもらったプレゼントは、永遠の命というプレゼントと較べれば小さなプレゼントではありますが、私たちは頂いた小さなプレゼントの一つひとつを大切にしていきたいと思います。**

**イエス様は、今日の箇所でナタナエルに対して十字架の死と復活の恵みのことに言及することはありませんでした。それは、ナタナエルという人が、偽りのないよくできた優等生であったことをみてのことかも知れません。イエス様は、ナタナエルをほめたたえはしましたが、１２弟子には入れなかったという説もあります。それでも、ナタナエルにはやがて彼に相応しい仕方で、十字架の救いが知らされたことを信じますが、１２使徒たちが概して優等生ではない個性豊かな人たちの集まりであった事には一定の意味があることでしょう。**

**イザヤ書53章より**

**彼は不法を働かず／その口に偽りもなかったのに／その墓は神に逆らう者と共にされ／富める者と共に葬られた。**

**彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちののためであった。彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。**

**偽りのないイエス様が身代わりとなって、私たちの内の偽りが、清められ赦されました。私たちは、この偉大な恵みを受けたことに感謝し、主をほめたたえながら、イエス様の御言葉を述べ伝える道を歩んで参りましょう。**

**祈ります**

**天の**

**あなたは、私たちに新たな一年を与えて下さいました。この一年の一日一日を、御子イエスと共に歩ませて下さい。苦難の僕であるイエス様は私たちの全ての苦しみ悲しみをご存じで、それに寄り添い、その都度、憐れみと慈しみを与えて下さいます。どうか、私たちが苦難のうちにある時に、イエス様にすがりついて助けを求める信仰を、私たちの内に強めて下さい。**

**また、フィリポがナタナエルにイエス様のことを伝えたように、私たちが隣り人に、福音の喜びを伝えていくことが出来るようにして下さい。この世の有様は移り変わりますが、主イエスの救いの喜びは変わることがありません。どうか、私たちがこの世のはかない喜びや偽りの平和に惑わされることなく、キリストのまことの喜びと平和のうちに憩うことが出来ますように。**

**どうか私たちが口にする言葉の一つひとつを、御心に適って、相手を慈しみ励ますものとして下さい。私たちが何処に在りましても、心と体でキリストを言い表す者として、豊かに用いて下さい。**

**父と聖霊と共に**